

勝コミュニティ・スクールだより10月臨時号

平成28年10月6日 福津市立勝浦小学校 Tel.52-0364 Fax52-4210 文責 校長 太田 剛
児童数 男子34名 女子47名 計81名

平成28年度全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査結果のお知らせ

本年度6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査（国語・算数 28.4/19 実施）、及び5年生を対象とした福岡県学力調査（国語・算数 28.6/21 実施）の結果等についてお知らせします。

この調査結果は児童の学力等の一面ではありますが、本校では学力調査を「学校及び家庭における児童の学習状況、学校における教職員の指導状況」を示すものと捉え、今後の指導に役立てたいと考えています。

1 全国学力・学習状況調査（6年生）の結果とその分析

① 全体的な傾向

国語 A・算数 A は全国平均とほぼ同じでしたが、国語 B・算数 B は全国平均よりやや上回っているという結果でした。

本校では、本年度より校内研究で「子ども一人一人の活用する力を育てる算数科授業づくり ～子ども自身が“問い”を生み出す導入と全員で“問い”を解決する交流活動の工夫を通して～」というテーマを設定し、授業改善を行っています。特に6年生の研究主任においては「“問い”を生み出す教材提示の多様な視点」「“問い”を解決する交流 “問い”を生み出す授業づくりの研修活動の方法」「自分の言葉」で表現するまとめ活動の工夫」を日常の授業の中に仕組み、全教職員に授業提案を行いながら実践化を図っています。今回の国語 B・算数 B の結果は、こうした本校研究の取組の成果を反映したものとと言えます。



② 国語

国語の評価の観点は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語に関すること」です。評価の観点ごとの正答率を分析すると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」では正答率が全国平均をやや上回っていましたが、「書くこと」「言語に関すること」に関しては全国平均をやや下回っていました。

③ 算数

算数の評価は「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」です。「数と計算」「量と測定」は全国平均をやや上回っていましたが、「図形」（図形の意味・性質など）「数量関係」（数量について言葉や数、式、表、グラフで表現するなど）については全国平均と同じかやや下回っていました。

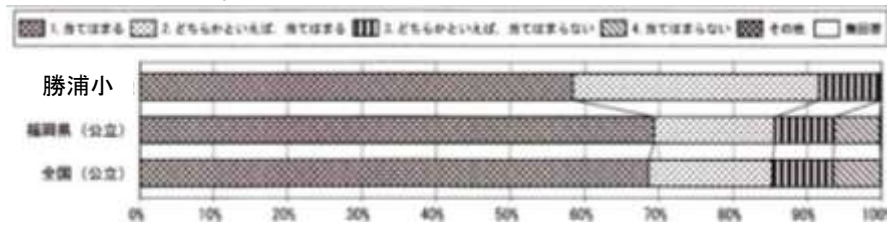
2 児童質問紙（6年生）の結果とその分析

① 福津市の全ての学校で重視している項目

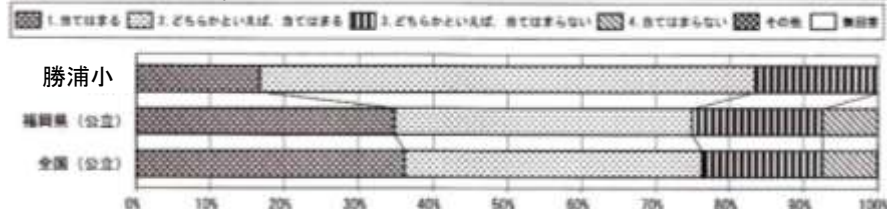
Q1～Q5 は、福津市全体で重視している項目で、全ての学校で保護者にお知らせしています。

本校では課題であった「将来の夢や目標を持っている」「自分には

Q1 将来の夢や目標を持っていますか？



Q2 自分には、よいところがあると思いますか？



よいところがある」という項目について、「(どちらかといえば) あてはまる」と答えた児童が全国平均をやや上回っており上昇傾向にはありますが、引き続き“夢を語り合える”学校づくりを推進していく必要があると考えています。また、「学校のきまりを守っている」という児童は100%に達し、本校児童の規範意識の高さを示しています。これは、勝浦のもつ地域性や家庭での規範意識に対する指導、学校での「あいさつ」や「学習ルールの徹底」が効果を上げていると思われる。

一方、家での学習時間や予習時間は、全国平均と比較して短く、十分であるとは言えません。今後は、予習の内容など家庭学習の中身も考えながら、家庭と学校が協力しながら子どもたちの“自立した学習習慣”を身に付けさせる必要があります。

② 本校の特徴的な項目

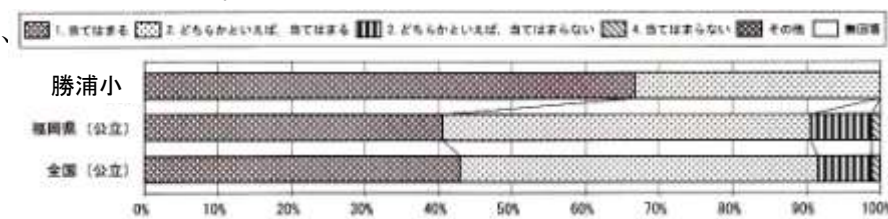
Q6～Q9 は、本校児童に顕著に表れている項目の一部です。

「家の手伝いをしている」児童が100%です。素晴らしい家庭教育の成果であり、将来につながるとても大切な内容です。しかし、「新聞を読んでいますか」については残念ながら低い数値になっています。高学年であることを考えても、未来の社会人としてそろそろ取組ませたいところです。

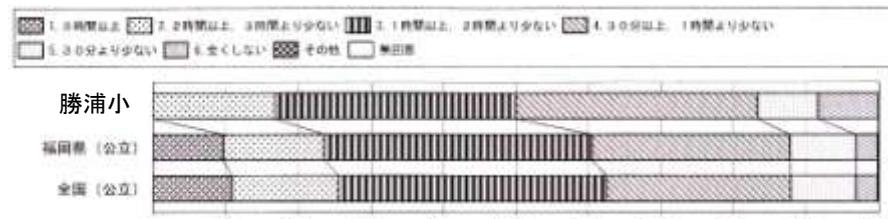
Q8、Q9 は、学級や先生の様子を問うたものです。教室の外からはなかなか見ることができない児童の心や考えを覗くことができます。

回答からは、児童が学級という集団を通して達成感を味わっていること、教師の真剣で誠意ある指導に対して学ぶ喜びを感じていることがわかります。それは、本校の「個に応じた指導」に対する児童の声であると受け止めています。

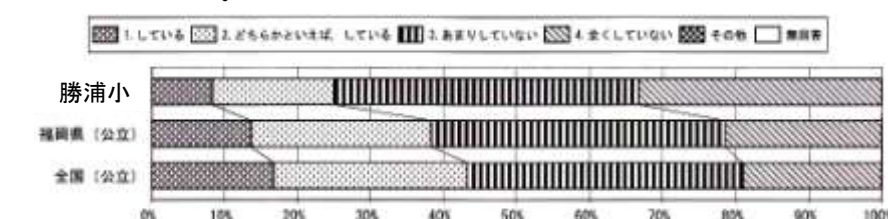
Q3 学校のきまりを守っていますか？



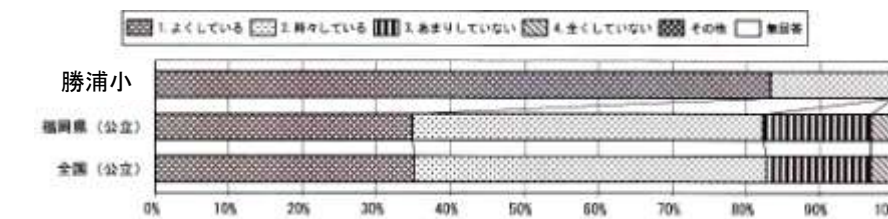
Q4 家で、どれくらいの時間勉強しますか？



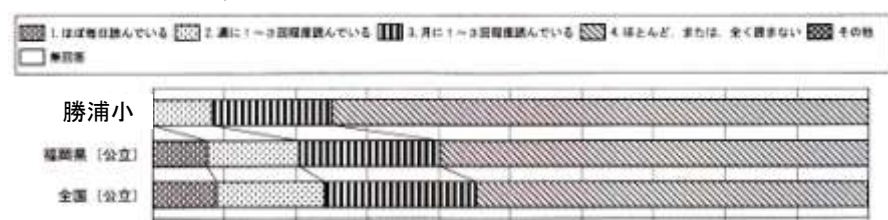
Q5 家で、学校の授業の予習をしていますか？



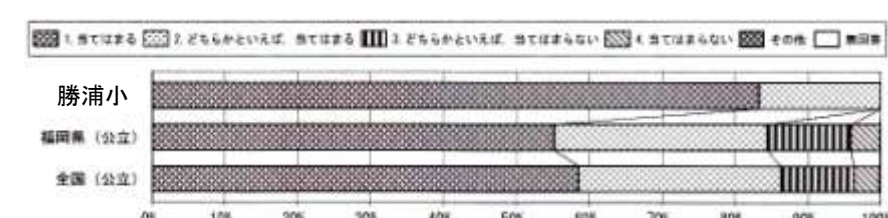
Q6 家の手伝いをしていますか？



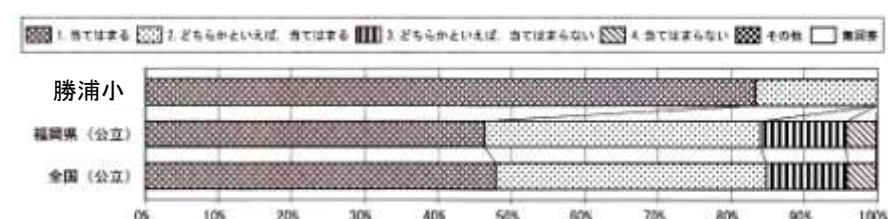
Q7 新聞を読んでいますか？



Q8 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか？



Q9 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか？



3 福岡県学力調査（5年生）の結果とその分析

① 全体的な傾向

国語 A・算数 A・算数 B については福岡県平均とほぼ同じでしたが、国語 B については福岡県平均を下回っているという結果でした。表ページでも述べたように、「“問い”を生み出す教材提示の多様な視点」「“問い”を解決する交流活動の方法」「“自分の言葉”で表現するまとめ活動の工夫」を、算数のみならず国語を始めとした他教科の授業にも取り入れ、校内研究の一般化を図るとともに、「活用力」に特化した授業づくりも進めていく必要があります。

② 国語

国語の評価の観点は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語に関すること」です。これらの観点の中で、特に「話すこと・聞くこと」についての正答率が低く、日常的に「学習規律」「話す・聞く活動（交流活動）の充実」「活用問題への重点的な取り組み」を図っていかなければなりません。

③ 算数

算数の評価の観点は「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」です。どの評価の観点も県平均とほぼ同じですが、「数学的な考え方」についてはやや下回っている傾向も見られます。そこで授業や課題においては、ドリル的な学習のみならず、既に学習した内容を活用して新たな問題を解いたり、なぜそうなるのかという理由や根拠を文字や言葉・式や図などで説明したりする学習を仕組んでいきます。

4 今後の取組

6年生の調査問題を分析してみると、国語、算数とも1～5年までの全学年で学習した内容が出題されています。一方、5年生の調査問題は、前学年である4年生の内容の出題が比較的多いようです。

また、学年児童の学習状況を見てみると、6年生の国語では「話すこと・聞くこと」の力が高いが5年生では「話すこと・聞くこと」は課題があり「言語についての知識・理解・技能」が比較的高いという特徴や、算数では「数量関係」は5・6年ともやや苦手であるが、6年の「数学的な考え方」は比較的高いという学年それぞれの傾向が見られます。

いずれにしても、“前年度までに落とさず学習ができているか”“学習が積み重なっているか”ということが非常に重要であり、そういう意味では低学年・中学年での着実な学習が大切だと言えます。このことから、今後の取組においては、5・6年生の当該学年はもとより、1～4年生までの学習内容の確実な定着を図ることが重要であると考えています。

そこで、次のような方針で取組を具体化します。

① 学力テストにおける児童の“つまずき”の徹底的な分析

5・6年生とも学力テストの詳細な結果が学校に報告されています。二学期開始早々、この結果を教職員全員で再度徹底的に分析し、教材の作成や指導に生かします。特に児童それぞれに“さらに伸ばしたい力”“不足している力”に目を向け、個別指導を行います。

② 授業の内容の改善

□ 「書くこと」を取り入れた授業

「書くこと」を意識的に取り入れた授業や課題を設定します。「書くこと」が学力の定着に欠かせないことは明らかであり、「自分の考えを言葉や文章として表現させる」場面を授業の中で意識的につくります。また、週末課題等で「短作文」等に取り組みさせます。

□ 「話すこと・聞くこと」を取り入れた授業

「書くこと」と対として、「話すこと」「聞くこと」も“交流活動”として授業に意識的に取り入れます。「相手の意図を汲み取り、それを受けて自分の考えを整理し、相手に伝わるように話すこと」が十分であるとは言えません。特に5年生を含め、下学年でこの授業改善を行います。

□ 「問い」を大切にした授業

教師が淡々と授業を進めるのではなく、児童の「なぜ?」「おかしいな?」「調べてみよう?」「おもしろそうだ」という“問い”を生み出す授業研究を行い、児童の興味関心や課題意識を大切にします。

③ 全学年で統一的な指導を行う

□ 学習規律の再徹底

チャイム席、あいさつやまとめのことは、姿勢、鉛筆等学習用具の準備、提出物の期限内の提出等、授業や朝活動（脳トレタイム）で全校的に確認し、徹底した取組とします。ご家庭でも学習用具や提出物についての確認を徹底させてください。

□ 学習集団づくりの推進

本校は過去3年間、特別活動の研修に取組み、学級集団づくりに力点を置いてきました。その成果は、表ページのQ8“学級のみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか”の結果に反映されています。今一度、学級会や全校集会、学級集会への取組を推進します。

□ 家庭学習の充実

表ページQ4 Q5からも分かるように、家庭学習の時間や内容にやや課題が見られます。今後は、「書くこと」「予習」等の宿題や家庭学習を推進するとともに、土日や長期休業にも一定時間自律的に学習できるよう、週末課題を工夫します。ご家庭でも協力をお願いします。